

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社UACJ押出加工名古屋
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市港区千年3丁目1番12号
工場等の名称	株式会社UACJ押出加工名古屋 名古屋製作所
工場等の所在地	愛知県名古屋市港区千年3丁目1番12号
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	アルミ及びアルミ合金板・押出製品の製造に係わる事業活動
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月31日 ～ 令和5年10月29日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） UACJ名古屋製造所本館事務所1階受付
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	名古屋製作所 設備技術課 TEL. 052-654-1123		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

1. 地球温暖化対策の推進テーマとして次の 6 項目を取り上げます。
 - (1) 省エネ活動によるエネルギー（電気、ガス、灯油等）の使用量の低減
 - (2) 燃料転換による地球温室効果ガス排出量削減
 - (3) 歩留・生産性UPによるエネルギー（電気、ガス、灯油等）の使用量の低減
 - (4) 資源（原料、副資材）の使用量削減、及び再生利用の促進
 - (5) リサイクル材を活用した環境に貢献できる製品の開発、及び提供
 - (6) 再生エネルギー設備（太陽光発電等）の導入

(2) 地球温暖化対策の推進体制

最高経営者（押出加工名古屋 社長）

環境管理責任者（名古屋製作所 安全環境室長）

環境責任者（設備技術課長）

環境保全推進者（製造部 室・課長）

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		17,784	t-CO ₂
（温室効果ガス除炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	17,784	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	0.813	t-CO ₂ / ton	0.7886	t-CO ₂ / ton	0.8086	t-CO ₂ / ton		t-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）			3.0	%	0.5	%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / ton		t-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

設備省エネ改善をはじめ、生産量に合わせたロスが少ない稼働集中化などの取り組みを実施した。省エネ改善の推定効果積み上げでは前年度比 1 %の向上を図れたものと判断されたが、生産数量が前年度比 4 %減少したことによる原単位の悪化影響をカバーしきれず。原単位排出量は前年度比 0.5 %削減と目標未達となった。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

グループ全体として再生可能エネルギー由来の電気購入が検討された。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

環境教育の機会を設定。地球環境保全に対する教育を行うことで意識高揚を図っている。
--